

令和5年度
発生予察情報

発生予報第2号（概要版）

令和5年4月27日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	イネミズゾウムシ	発生量: やや少	
	イネドロオイムシ	発生量: 平年並	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
麦類	オオムギ赤かび病	発生時期: 早い 発生量: 平年並	
	コムギ赤かび病	発生時期: 早い 発生量: 平年並	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
うめ	かいよう病	発生量: やや少	
	黒星病	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: やや多	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
次回、発生予報第3号の発行日は5月29日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

ー初期害虫の発生予報と防除のポイントー

1 発生予報

病虫害名	発生時期	発生量
イネミズゾウムシ	ー	やや少

予報の根拠

(1) 前年の発生量がやや少なかったことから、越冬密度はやや少ないと推測される。(/ー)

病虫害名	発生時期	発生量
イネドロオイムシ	ー	平年並

予報の根拠

(1) 前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・ 移植直後の加害が多いと、分げつが抑えられ減収する恐れがあるため、侵入盛期(下表)近くに移植する場合は発生に注意する。
- ・ 箱施用剤で防除を行った場合でも、要防除密度(下表)を参考に、必要に応じ茎葉散布による防除を実施する。
- ・ イネミズゾウムシは侵入盛期の要防除密度を参考に、要防除密度に達したら直ちに防除を実施する。
- ・ イネドロオイムシについては侵入盛期または産卵盛期の要防除密度を参考に、防除適期である産卵盛期後のふ化盛期(平年:6月11～15日)に防除を実施する。

表1 対象害虫の侵入盛期(平年)と要防除密度

害虫名	平年の侵入盛期	要防除密度
イネミズゾウムシ	5月第6半旬 (5月26～31日)	侵入盛期の成虫密度(畦畔際2m程度):100株当たり140頭 ※晩期栽培の場合は70頭
イネドロオイムシ	6月第1半旬 (6月1～5日)	侵入盛期の成虫密度:100株当たり25頭 産卵盛期(平年:6月6～10日)の卵塊密度:100株当たり80個

- ・ 薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※IRAC^{アイラック}コード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) イネドロオウムシ

- ・県内の一部地域でチアメトキサムに対する薬剤感受性低下が確認されている。過去に本成分を含む箱施用剤を使用しても発生が多く確認されたほ場では、別系統の箱施用剤を使用する。
※普及に移す技術 第94号 参考資料6 「水稻のイネドロオウムシに対する殺虫成分チアメトキサムの薬剤感受性低下」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735193.pdf>

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』配信中★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和5年度 発生予察情報	発生予報第2号 ー麦類ー	令和5年4月 27 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

ー5月下旬までの発生予報と防除のポイントー

作況試験ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台4月 27 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオムギ赤かび病	早い	平年並

予報の根拠

- (1) 作況試験ほにおける大麦の出穂期は平年より早く、「シュンライ」では、平年と比較して開花期が7日早かった(表1)。(ー/)
- (2) 開花期前後の降雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
コムギ赤かび病	早い	平年並

予報の根拠

- (1) 作況試験ほにおける小麦の幼穂の生育は平年より進んでおり、「シラネコムギ」では、平年と比較して開花期が4日早いと予測される(表1)。(ー/)
- (2) 開花期前後の降雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

表 1 作況試験ほの出穂期・開花期 (大崎市古川)

麦種	品種	出穂期(月/日)			開花期(月/日)		
		本年	本年見込み	平年	本年	本年見込み	平年
大麦	シュンライ	4/18	ー	4/25	4/25	ー	5/2
	ミノリムギ	4/22	ー	4/29	ー	4/28	5/5
小麦	シラネコムギ	ー	4/29	5/5	ー	5/11	5/15
	夏黄金	ー	4/28	5/6	ー	5/9	5/15

※ 令和4年 10 月中旬播種(令和5年産)麦類作況試験生育状況(4/26 現在)

※ 本年見込みは4/10 現在の幼穂長をもとに予測

※ 平年値は過去7か年の最高値と最低値を除いた5か年の平均値

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

- ・赤かび病の薬剤防除適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目はその7～10日後である。生育状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除を行う。
- ・「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7～10日後に実施する。
- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」より出穂期が1～2日遅いので、1回目の防除のタイミングに注意する。
- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなるため、降雨が続く場合は晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
※FRACコード：殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものの。
(参考：農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

<参考> 出穂期（出穂率 40～50%）から開花期に達するまでの日数の目安

日平均 気温(℃)	大麦			小麦		
	開花始	開花期	開花終期	開花始	開花期	開花終期
10	8	11	14	14	19	24
13	6	9	12	11	15	19
15	5	7	9	9	12	15
18	3	5	7	6	8	10

- ・普及に移す技術第83号参考資料「麦類の出穂期を基準とした開花期予測」参照
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20262/69869.pdf>
- ・大麦は「シュンライ」「ミノリムギ」、小麦は「シラネコムギ」に適用

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー5月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:4月20～21日

天候予報:仙台管区气象台4月27日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
かいよう病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、結果枝における発病は確認されなかった。(/ー)
- (2)本病の発生には気温12℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)落花期以降は高温で経過し、一時的にまとまった降雨はあったが降水量はほぼ平年並であった。(/±)
- (2)本病の発生には気温20℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は高いが、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢における寄生は確認されなかった。(/ー)
- (2)3～4月にかけて高温で経過した。(/+)
- (3)向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

^{エフラック}
※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものの。

^{アイラック}
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものの。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- DMI 剤 (FRAC コード*:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>
- 果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)かいよう病

- 第1次伝染源である潜伏越冬枝病斑を剪除する。
- 生育期防除として抗生物質剤が有効である。ただし、使用時期(収穫前日数)に注意するとともに耐性菌が発生しやすいので注意する。
- 発病部位が枝、葉、果実、花そうと多岐に及ぶので、薬剤は樹全体にムラがないように散布する。
- 開花後、風を伴った降雨があると多発しやすいので、常発園や多発園では防風ネットなどの対策を行う。

(3)黒星病

- 第1次伝染源である枝病斑を剪除する。
- 本病菌の潜伏期間は長く、果実での発病がみられる5月以降も約2週間間隔で薬剤防除を実施する。
- 本病は日照、通風不良園で発病が多いことから、必要に応じて新梢の間引きを行い、風通しと日当たりをよくする。

(4)アブラムシ類

- 発生の多いほ場では、他の病害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定して防除する。
- 薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(5)コスカシバ

- 幼虫の食入部位や虫糞が混じった赤褐色の樹脂を見つけ次第、散布剤やエアゾール剤で防除を行う。
- 耕種的防除として、幼虫の食入部位をノミなどで削り取り、幼虫を捕殺するか、上から金槌等で叩いてつぶす。
- 成虫が発生する5月までに交信攪乱剤を用いて成虫の産卵を阻害することも有効である。

ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム